



【豊かな実を結ぶために小狐を捕らえよ。!】

聖書:雅歌2章15節/ 暗唱聖句:ヨハネ15章 5節

ジョン・マッセル
 説教者: 鄭南哲牧師

クリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん!

一週間も主にあって守られ、お元気でしたか。今日の聖書の本文で神様は私たちのぶどう畑を荒らす小狐を捕らえよと警戒しています。神様は雅歌書をとおしてぶどう畑を荒らす小さいものらに気をつけるようにと教えて下さっています。

神様が預けてくださったぶどう畑をちゃんと守りましょう。神様は我々に自分たちのぶどう畑を預けてくださいました。この地上に住んでいる間、しばらくだけ預けてくださったのです。ぶどう畑を預けてくださった神様は我々がそれをちゃんと守っていくことを願っておられます。ぶどう畑を預けてくださった方は神様です。しかし、そのぶどう畑を守り、広げていくのは私たちの分です。聖書で言うぶどう畑はいろんな意味を持っています。それは神様が我々に許して下さった家庭でもあります。それが教会共同体、そして、国でもあります。我々が動いているある区域、領域でもあります。ダビデは神様が自分に与えて下さった区域について感謝をささげました。

“測り綱は、私の好む所に落ちた。まことに、私への、すばらしいゆずりの地だ。(詩篇16:6)”

何度も繰り返して強調していますが、他人のぶどう畑をうらやましがらないで下さい。他人が受けている分をうらやましがらないで下さい。神様が自分たちに預けてくださったぶどう畑、区域に感謝してください。我々はまず神様が自分たちに許して下さった、ぶどう畑をたがやし、守らなければなりません。我々はほかのぶどう畑から出る極上品(ごくじょうひん)ぶどうをみながらうらやましがり、比較しながら悩む時もあります。しかし、我々が覚えるべきことは我々がうらやましがっているぶどう畑も時にはとつても小さかったということです。神様が自分たちにあずけてくださったぶどう畑に実が豊かに結ばれなかったならそれは我々のせいです。ぶどう畑が荒らされたなら、それはぶどう畑の問題ではなく、ぶどう畑を守るべき責任が我々にあることを知らなければなりません。

いま我々は家庭の危機の中に住んでいます。多くの家庭が脅かされています。そして、幸福で愛が溢れるべき教会共同体が苦しんでいます。マーク・トゥエインは(Mark Twain)はなにも起こらないだろうという漠然とした信仰を持っている人々に次のようにすすめます。“我々はある出来事が起こるだろうという事実を知らないからではなく、その出来事が起こらないだろうという漠然とした信念のため危険に陥る場合がある。”

神様は雅歌書をとおして我々を目覚めさせて下さっています。ぶどう畑が荒らされ、崩れることもありえるという警告もしてくださっています。“そのくらいは大丈夫だろう。まさかそんなことが起こるはずなんかないだろう。”と考えたことが現実になってしまったことを見たり、経験されたことがあると思います。我々は自分たちに預けてくださった人生のぶどう畑をきちんと守るために関心を持たなければなりません。

<ぶどう畑を荒らす小狐を捕らえましょう。>

1. 小狐とはうまくものごとが行く時油断することです。

ぶどう畑を守るものがあれば、荒らすものがあります。神様はぶどう畑を荒らす小狐を捕らえておくれと命じられています。英語の聖書を見ると、小狐が複数になっています。我々は我らのぶどう畑を荒らすために虎視眈々(こしたんたん)狙っている小狐らがいることを忘れてはいけません。油断してはいけません。ここに関心を持たなければなりません。みなさん。タイタニックという大型豪華旅客船(おおがたごうかりよかくせん)を覚えていますか。

タイタニックの船長だったエドワード・スミス船長は1850年イギリス出身で、30歳の1880年にファイトスターライン(White Star Line)に入社して以来豪華旅客船ばかり担当していたベテラン船長でした。ところが、彼はタイタニックを運航(うんこう)していた時、決定的なあやまちを犯してしまいました。氷山の警告を無視してしまったのです。4月にはいつもたくさんの氷山が漂流してくることをよく知っていたし、同時間帯を運航していた船からも氷山が流れているので、気をつけるという警告も何度も受けました。

4月11日に6回の警告、12日に5回、13日に3回、衝突の当日の4月14日は7回も警告が伝わってきましたが、スミス船長はこの警告を大したことのないように無視してしまいました。氷山が少ない海域に路線を返ったのでもなく、スピードを落としてもありませんでした。彼はただ、到着の時間だけを守ろうということだけに気を配っていたからです。タイタニックの通信士であったジャック・ピリップという人は乗客らの電報を処理するのに夢中で、近隣のカルポニア号から氷山の警告を送ってくれた通信士に“だまれ”と言ったようです。スミス船長の油断と船員たちの油断が大型事故を招いてしまったのです。事故の直後でもうまく対応ができたなら人身被害をも減らすこともできたそうです。事故の直後はどうなったのでしょうか。タイタニックの沈没(ちんぼつ)によって1,500人の死傷者が出たのは救命ボートをないがしろにしたせいもあるそうです。経験のあさい新入船員が救命ボートの隊員として配置され、救命ボートもとつても非効率的(ひこうりつき)に扱われたからです。船が沈没する時、救命ボートが二個も使わわず船にかけられていたし、救命ボートには定員未満の人を乗せたため、よけいな死亡者が出たのです。20隻(せき)の救命ボートに定員をみな乗せたなら1,178人も生き残れたのに、実際には711人しか乗らなかったのです。はじめのボートには65人定員の中28人だけが乗

りました。もちろん、女性と子どもを優先に配慮したのはすばらしかったですが、空いていたなら男性も当然もつとのせた方が合理的だったかも知れません。

愛するみなさん! 小狐らはうまく行く時、油断させるものです。

タイタニックのスミス船長の問題は油断にありました。彼は豪華版旅客船(ごうかばんりょかくせん)を航海する船長として名声が広がっていました。そんなわけで彼は油断してしまったところがありました。彼がタイタニックの船長になった時、彼は62歳でした。船長として多くの航海経験をもっていました。その経験をも無視はできませんが、その経験が積もれた時、彼は油断してしまったのです。

みなさん! 今日の聖書本文の御言葉にもう一度注目してみましょう。小狐がぶどう畑を荒らすときはいつでしたか。

それはぶどう畑に花が満開(まんかい)していた時でした。

“いちじくの木は実をならせ、ぶどうの木は、花をつけてかおりを放つ。わが愛する者、美しい人よ。さあ、立って、出ておいで。”(雅歌2:13) 花は美しいし、香りを放ちます。見た目も美しいです。人々の関心をあびます。この時こそが危ない時です。気をつけなければならない時です。

我々の人生に花が咲く時があります。花が咲くということは実を結ぶためです。ところが、実を結ばせる前に花だけを見てぶどう畑を荒らす小狐にあいます。問題は人生に花が咲き、成功と富と権力を手に入れるときです。その時、ぶどう畑の扉を開いて、人々に見せたくなくなります。見せなくなり、自慢したくなります。そのとき、同じくぶどう畑を荒らす小狐もやってくる時であることを忘れてはいけません。油断は高慢から来ます。高慢な人の特徴は聞く耳を持たないことです。ぶどう畑を立てるのは謙遜な心です。謙遜な人は自分の足りなさを知っているためいつも目覚めています。自分の限界を知っているため神様を信頼し、頼ります。小さいアドバイスにも耳を傾けます。謙遜な人は豊かに実を結ぶまで油断しません。

愛する信仰の家族のみなさん!

いま美しく花が咲いていると、そのお花に満足しないで下さい。すべてのことが自分の思うとおりに行くといって安心してはいけません。我々は実を結ぶために召された者です。そういうわけでいつも目を覚ましていなければなりません。神様は我々に花を咲くようにと言われませんでした。神様は我々に実を結ぶようにと命じられました。

2.小狐は急ぐ心です。

ぶどう畑を荒らす小狐の一つは急ぐ心です。小狐はまだ実を結んでもないぶどうの木の花をだめにさせようとします。実を結ぶ前に花を触るのが小狐です。狐はまだ熟してないぶどうをとって食べたがります。まだ、酸っぱくてしぶいぶどうをとって食べたがるのが狐です。早急(そうきゅう)するとぶどう畑はだめになります。我らの人生のぶどう畑も同じく急ぐことで成り立てるものではありません。誠実さで作り上げられていきます。一途な生き方によって成り立ちマス。フランクフルト(Franz Kafka)は“人間には大きい罪が二つあり、その罪は全部ここから出る。急ぐ心と怠ける心だ。”と言いました。怠けるのと急ぐ心はよくないやつです。怠けると急ぐようになります。ぶどう畑をちゃんと守るためには急いではいけません。タイタニックのスミス船長のように我々も同じ過ちを犯してはいけません。定時(ていじ)に着くためにただスピードだけに集中し、無理したため元に戻すことのできない状況に至ってはいけません。もちろんスピードをも無視してはいませんが、船の存在目的としてお客さんを安全に目的地まで導くのに最善を尽くすべきではありませんか。我々のぶどう畑を守り、立て上げていくために一番大切なのは自分の急ぐ心をおさえ、耐え忍ぶことです。家庭というぶどう畑、教会というぶどう畑を立て上げていく人は実を結ぶその時まで耐え忍ばなければなりません。

愛するみなさん! 結婚生活も、教会の生活も急いではいけません。早く、幸福になり、早くお金をもうけ、早く豊かになり、早くまじめに信じようとする考えを捨てましょう。我々の人生はマラソンのようです。信仰の生活も、家庭生活も、主が来られるまで、主の御前に立たされるその時まで続けるという姿勢で、急がないで、一步一步気長(きな)が)に進まなければなりません。

3.小狐は恨みです。

ある面、イスラエルは神様のぶどう畑でした。エジプトを出たイスラエルの民の中で多くの人々が荒野で倒れました。それはつぶやきのためでした。それは他人のせいにするのです。ぶどう畑を立てるためには人のせいにしたり、つぶやいてはいけません。ぶどう畑を立て上げていく人は責任意識がある人です。小狐のせいでぶどう畑が荒らされたら、それをだれかのせいにしてはいけません。自分たちが責任を負うべきです。ぶどう畑を立たせる言葉は励ましです。ぶどう畑は励ましを通して立てられます。小さいあやまち、ちいさい失敗を経験してない人はだれもいません。赤ちゃんは歩けるようになるまで何度も何度もころんで、立ち上がります。そのとき、親がやることがあれば、それはその赤ちゃんを励ますことではありませんか。

<小狐に気をつけますが、ぶどう畑の目的に目をとめましょう。>

愛する信仰の家族のみなさん!

神様はぶどう畑を荒らす小狐を捕らえるようにと命じられましたが、決して小狐に執着しろという命令ではありません。神様の関心はぶどう畑にあります。ぶどうの木にあります。ぶどうの木の豊かな実にあります。神様はご自分の民をぶどうの木だと言われました。みなさん!我々が注意すべきことは、ぶどう畑の目的は小狐を防ぐ事にあるのではなく、

豊かな実を結ぶ事にあります。その豊かな実をもって神様に仕え、人々に仕える事にあります。我々がこれらの目的は失ったまま、小狐ばかりに執着してしまうとわれわれは本当に大切な人生の焦点まで失ってしまうと思います。

イエス様の十二人の弟子の一人だったイスカリオテユダは小狐のようでした。しかし、イエス様は彼の正体がみずからあらわされるまで待ちました。イエス様は御存知でした。だからこそ、油断しませんでした。イスカリオテユダが弟子共同体を荒らさないように警戒を緩(ゆる)めませんでした。

我々のまことの生きがいは目的が導く人生を送ることです。我々の目的は崩されたとしてももう一度立たせることです。どんなに最善を尽くしても、時には我々のぶどう畑がくずされようとするを経験する時があります。人間としての弱さのため、難しい環境のため、天災地変(てんさいちへん)のため、困っている経済のためぶどう畑がくずれる経験をする時もあります。ひどい誘惑とサタンのこころみによって我々が窮地(きゆうち)に追(お)われる時もあります。我々の急ぐ心と未熟さによってそうなる時もあります。そのとき、我々がさがし求めるところは十字架です。イエス様が来られたのは崩れ去ったぶどう畑をふたたび回復させるためです。イエス様の十字架は回復の現場(げんば)です。崩れ去ったところを立て直し、断たれたところを再びむすぶ所です。我々のぶどう畑を潤された園のように再び回復させてくださる方はイエス様のみです。

“主は絶えず、あなたを導いて、焼けつく土地でも、あなたの思いを満たし、あなたの骨を強くする。あなたは、潤された園のようになり、水のかれな源のようになる。(イザヤ58:11)

メッセージをまとめます。小狐を捕らえましょう。小さいことを決してないがしろにしないで下さい。尊い犠牲をはらってたてあげたぶどう畑です。その大切なぶどう畑を小狐が荒らすようにと放置してはいけません。油断しないで、急がないで、つぶやかないで、他人のせいにならないでください。小狐に気をつけるべきですが、それに気をとらえすぎて、豊かに実を結ばせる使命と存在目的を失ってしまうことがないように気をつけましょう。我々の目的は小狐を捕らえて殺すことではありません。我々の目的は豊かな実を結ぶことです。豊かな実を結ぶことにより神様に栄光をささげることであることを忘れないで下さい。

“わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。”(ヨハネ15:5)

小狐に気をつけますが、我々の心と目線はいつもイエス様に向いていかなければなりません。いつもイエス様にあつて豊かな実をむすぶみなさんと、家庭と、教会となりますよう主イエス・キリストの御名によって祝福します。アーメン!